

第1回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

河野 晋也

◇日時 2026年5月31日（日）10:00-12:00

◇場所 明日香村内

◇参加者

【学生】 榊原、田中

【万葉文化館】 井上、中本、榎戸

【大学教員】 加藤、米田、大西、河野 計9名

◇内容 明日香村内のフィールドワーク

万葉文化館内（すごろく）→ 飛鳥宮跡 → 飛鳥宮前殿跡 → エビノコ郭跡 → 飛鳥京跡
苑池遺跡 → 酒船石遺跡

1. 万葉文化館 すごろく



大宰帥の任を終えた旅人の帰京を体験できるすごろくを作成されており、見せていただいた。当時の風習や習慣なども可能な限り再現されており、またすごろくの主人公になる大伴旅人の性格やくらしなども文献などをもとに再現したマスが作られている。

2. 飛鳥宮跡

伝飛鳥板蓋宮跡と呼ばれていたエリア。乙巳の変で、蘇我入鹿が暗殺された場所とも言われている。当時は天皇が変わるたびに宮を換えていたとされており、発掘調査から、飛鳥岡本宮（34代舒明天皇）、飛鳥板蓋宮（35代皇極天皇、37代齐明天皇（皇極天皇が重祚）、後飛鳥岡本宮（齐明天皇）・飛鳥浄御原宮（天武天皇、持統天皇）という大きく3つの時期（と4つの宮）に分類される。現在復元されている石敷広場や大井戸跡は上層にあった飛鳥浄御原宮のものとされている。現在は3D画像で当時の様子を見ることができるようになっている。



3. 飛鳥宮 前殿跡

2025 年の調査で、柱建物遺構が見つかり、東西 20m 南北 11m の前殿があったことが判明。これによって正殿の規模がわかってきた。

4. エビノコ郭跡

飛鳥宮の南東方向に位置する公園内に碑がある。名前の由来は今の明日香村役場付近の小字「エビノコ」からきていとされている。この付近から大型の掘立柱建物（エビノコ大殿）の跡が発見された。天武天皇の頃（浄御原宮）のころにつくられたとされており、後々の大極殿の原型になったと思われる。

5. 飛鳥京跡苑池遺跡

飛鳥宮の西側に隣接する庭園跡。大陸の影響を受けて設計されたとされている。発掘調査の後、遺跡を保護するため埋め直されているが、パネルなどで見学することができる。地形から、飛鳥川の流れを利用しており、石積みの護岸が、南北二つの池でなされていたことがわかっている。北側は湧水・導水施設が確認されている。南側には噴水構造の石造物や中島が築かれていた。中島の周囲には栈敷状の施設が設置されていた。

6. 酒船石遺跡

万葉文化館のすぐ隣にある丘は明日香の花崗岩などを用いて造られた人工の丘であるとされ、現在は倒壊していた石垣を復元して公開している。日本書紀に「宮の東の山に意思を累ねて垣とす」「石の山丘をつくる」（斉明天皇 2 年の条）とあり、それと関連する可能性が高い。さらに上ると長さ 5m 幅 2m 高さ 1m ほどの花崗岩の酒船石が置かれ、丘のふもとには小判型石造物と亀形石造物があり、併せて酒船石遺跡と呼ばれている。